

金沢学院で学びたい

オープンキャンパスにぎわう

金沢学院大学、金沢学院短期大学の2006年第一回オープンキャンパスは六月十八日、金沢市末町のキャンパスで行われ、保護者を含め約三百人が学科説明、キャンパスツアー、オープン授業などを体験し、学生食堂でランチや焼き立てのパンを味わって、ひと足早く学生気分を味わいました。これまで補助的な役割が多かった在學生は、今回は受付係、誘導、案内係などとして主体的に活躍し、訪れた高校生が質問などもしやすく、親しみが持てるような印象のオープンキャンパスとなりました。



鉛筆によるデッサンで薪を描く生徒 = 6号館

在學生が受付や案内役で活躍

在學生は、大学、短大合わせて六十六人が、事前準備の展示補助に始まり、当日は金沢駅で無料送迎バスへの誘導係、玄関での歓迎参加カードやジューズの配笑顔を答えていました。



受付係を務める学生

模擬授業のうち、大学美術工芸学科の実技セミナーには十一人の高校生が参加し、薪を鉛筆でデッサンする指導を受けました。人気の短大食物栄養学科では、クッキーづくり約四十人が参加しました。卵や小麦粉を使って生地をこね、型をとって焼き上げました。生活デザイン学科のビジネスマナーの授業では



電話の掛け方について知識を豊富にしました。

短大の学科説明を聞く高校生 4号館講堂

人間の自信と限界を後世へ

石田学長 県民大学校で講演



記念講演する石田学長

金沢学院大学・短期大学の石田寛人学長は六月十一日、石川県立生涯学習センターで行われた石川県民大学校大学院の石川の博士養成講座開講式で記念講演しました。

石田学長は「何を次世代に伝えるか」の演題で、チエコ大使当時感じたヨーロッパ文化の奥深さ、歌舞伎など古典芸能の魅力などを紹介しました。そのうえで、文化は放つておいて自然に伝わるものではない。知性的な動物の人間が二十世紀初頭までに積み上げた成し遂げたもの、人間の自信、人間の限界を後世に伝えていかなければならない」と締めくくりました。



敷地内の古窯発掘調査 金沢学院大学美術文化学部文化財学科の三、四年生二十人は六月十三日、考古学実習の授業で初めて、大学敷地内に点在する奈良中期から平安前期の古窯跡の発掘調査を始めました。写真左。発掘は七月下旬まで行われます。



写真上。

若者しごと館で未来探し 金沢学院東高校の一年生約二百五十人は五月三十一日ないし六月七日に金沢市広坂の県若者しごと情報館を訪れ、職業講話、仕事発見テスト、疑似体験などを通じて自分に適した職業にはどんなものがあるか学びました。写真上。



金沢市末町周辺にはかつて、金沢の土器生産拠点「古窯」があり、約二十基の遺跡が確認されています。トランボリンの基礎体得 金沢学院大学基礎教育機構の土曜大学第一回講座は六月十七日、第二体育館で行われました。親子ら五十人が、福井卓也助教授から開脚や腰落ちなど基本的な跳び方の指導を受け、空中感覚とバランスの取り方を学びました。写真左。